

Y's Men International
Y Service Clubs International

YMI

WORLD



“To acknowledge the duty that accompanies every right”

Only for private distribution to members

YMI ワールド
2018-2019 No.1
日本語版



国際会長の手紙：「我々は世界を変革する者なり」、ワイズメネット「ワイズメネット活動のより良い多様性に向けて」、国際ユースコンボケーション（8月6日～12日）、特別エッセイ「平和と国連とワイズメンズクラブ国際協会会員であること」、写真は語る「韓国・ヨス国際議会、2018 国際大会」、内省「何が我々の成長を阻害しているのか？」私たちのパートナー・YMCA「トップレベルでの新たなリーダーシップ」、地域からのニュース「ホンコン・洞察力ある介入」「ロシア・沢山の笑顔、そしてハッピーフェイス」「インドケララ州・巨大洪水に立ち向かう」、地球規模の関心事「地球とプラスチックのどちらが大切か?」、魂の真言「花の視点から」

読者の皆さまへ



また、新たな国際大会が、一私たちの96年の運動の中での第73回目の大会ですが、韓国で成功裏に開催されました。3,000名という記録的な数のワイズメン、ウイメンが参加したと聞きました。私たちの内の何人かは4日間に及ぶカーニバルのような雰囲気を楽しみました。細部まで気配りが行われた計画とテクノロジーと多くのボランティアに支えられた、申し分のない運営の思い出は消えません。私の経験の中では、韓国のワイズメンによるビジターへの親切なもてなしは過去に比類がありません。

今号のYMIワールドでは、大会に出席した何人かのメンバーの目を通していくつかの瞬間を記録しました。その他に、国際議会、国際大会のいずれかで提供された情報を掲載しています。ワイズメネットについてジェニファー・キャメロンが大会でのフォーラムに提出した報告書も掲載しています。

シルビア・レイエス・デ・クロチは、私たちからの、「国際平和デー、国連とYMI会員」についての特別エッセーを書いて欲しいというリクエストに応じて、国連・経済社会理事会の特殊諮問資格者であることによる、国連ネットワークの一員としての、私たちの責任と務めについて焦点を当ててくれました。

「2022年に向けて」は、近年、常に議論のテーマとなってきました。2022年の100周年が近づくにつれ、2010年に横浜で描いた目標と計画について現実的に考えることが必要な時期となっています。このことの助けのために、元国際会長のアイザック・パラシナルに何が私たちの成長を妨げているかを省みてもらいました。彼は、率直な意見を述べてくれました。指導者たちが適切なアクションを取ることを願っ

表紙: 第73回国際大会を記念する、韓国・ヨス中心部の市営公園での「ビッグY」の除幕式。「ビッグY」は8つの部分に分かれていて、それぞれがYMIの8地域を示しており、またYM Iの最初の文字、ヨス (Yeosu) として国際会長主題の「Yes, we can change」を表している。

ワイズメンインターショナル ワイサービスクラブズインターナショナル公式誌

国際本部: Ave Sainte-Clotilde 9, CH-1205 スイス

国際編集長: コシー・マシュー

日本語版翻訳グループ: 田中博之 (委員長、東京多摩みなみ)、
青木一芳 (千葉)、今城高之 (横浜つづき)、利根川恵子 (川越)、
太田勝人 (東京世田谷)、倉田正昭 (京都)、
谷川寛 (大阪センテニアル)、谷本秀康 (東広島)

印刷: (株)三浦印刷所 三浦克文 (岡山)

ています。

YMIのYMCAとの長い絆は、最近のいくつかの出来事によって一層深められました。ひとつは、私たちの次期の国際書記長に、YMCAの職員であった者が選ばれたこと、もうひとつは、幾人かのYMIのメンバーがチェンマイでの世界YMCA大会に出席したことおよび、反対に、世界YMCA同盟の新しい総主事カルロス・サンビー他30名弱の主事がヨスの国際大会に出席したことです。これらは、私たちの絆を強め、YMCAは存在するが私たちのクラブが無い地域に私たちの運動を築くことを助けると思います。

今号の図書紹介のコーナーでネルソン・マンデラの自伝を採り上げた理由は、私自身が、彼のファンだからです。彼を20世紀後半のマハトマ・ガンディーと呼ぶ人たちがいます。彼が世界中で人権運動に携わる人々の希望の指針であったことは疑いがありません。今年7月18日に世界は、彼の生誕100年を祝い、そしてこのマハトマ (偉大な魂) に何百万人もが敬意を表しました。

これらによって、今号はいつもより厚くなってしまいました。編集者一同が楽しみながら編集したのと同様に、皆さまも楽しみながらお読みください。

ワイズリー ユアーズ

コシー・マシュー

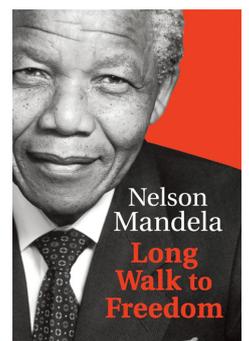
私の本棚から

「自由への長い道」ネルソン・マンデラ著。マクドナルド・パーネル出版 (ランドバーク、南アフリカ)

ネルソン・マンデラは、私たちの時代の倫理と政治面での最も偉大なリーダーのひとりです。人生を南アフリカでの人種差別と闘い、ノーベル平和賞と大統領職を得た国際的な英雄です。4半世紀を超える投獄からの勝利的な解放以来、マンデラは、世界の、最も人を惹き付け、鼓舞する政治的ドラマの中心にいました。アフリカ民族会議の会長としてまた、南アフリカの反人種隔離政策運動の長として、彼は、国を複数民族による政府、多数原理へと変化させる手助けをしてきました。彼は、どこでも、人権と民族平等の闘いの極めて重要な人物として尊敬されていました。

「自由への長い道」は、感動的な、人に元気を与える自伝で、歴史上の偉大な人物の最も優れた自叙伝のひとつです。この本でネルソン・ロリフラフラ・マンデラは、初めて、彼の驚くべき人生一闘いの叙事詩、挫折、新たな希望そして究極の勝利—を語っています。

(A Goodreads Review)





“我らは世界を変革する者なり”



ワイズメンの皆様、

この世に生かされて、様々な人々と出会い、人類共通の普遍的な目的のために協働するのは、素晴らしいことです。

ワイズメンとして生きることは、さらに素晴らしく、価値あるものです。ただの個人として世に生きるのとは、どの点から見ても違いがあります。私たちは、困難の中にある人々を優しく抱きしめ、温かい涙を注ぐワイズメンの家族なのです。私たちの活動は、社会に変化と成長をもたらし、より良い世界を創りだす、素敵なのです。ワイズの運動がこうして広がり育ってきたことは、誰も否定できない私たちの現在までの歴史です。

今日の変革は、ワイズメンの新しい歴史を始める創造の日ともいうべきものです。

私たちの求めてきたよりよい世界は、ワイズメンの使命を忠実に実践することによって達成されます。このために、会員は、皆が真の奉仕精神と仲間意識をもったリーダーでなければなりません。イエス・キリストの教えである人間性の高貴な特性に基づいた、普遍的原則と諸価値に導かれて働くリーダーです。

私たちの活動は、個人的あるいは政治的関心を反映するものではなく、人種、宗教ほかどんな社会属性をも超える人類愛への広い関心のもとに、よりよい世界創出を目指すものです。私たちは、誰もが持つ固有の価値を大切にする、幅広いリーダーシップを身につけなければなりません。

私は、私たちの運動を変革してもっとやり甲斐のあるものにし、より多くの参加者を得てもっと楽しいものにしたと願っています。それゆえ、私の任期中の国際会長主題を、“Yes, We Can Change!” (私たちは変えられる)と決めました。また、私のスローガンを、“Courage to Challenge” (挑戦への勇気) と決めました。願わくは、皆様お一人お一人が変革への勇気を持って、ご自分のクラブ文化を成長と発展に向けて変えることへの真摯な努力を重ねられますように。

私たちが目指す「奉仕の精神を持ったリーダーシップ」が、将来の世界の道義を変革する重要な役割を果たすことでしょう。私たちは、自分たちの属するクラブを変えるだけでなく、持続可能な解決策をもって、地域社会を変え、国家を変え、全世界を変えることができる、と私は確信しています。

今日、皆様は脚光も浴びず、名を上げられることもなく、奉仕に徹する真のワイズメンです。皆様ご自身と皆様のクラブの上に、神の祝福がありますように。

ムン・サン・ボン 国際会長2018/19

国際協会の人々

国際協会の新国際書記長

ジョース・ヴァルギース氏（インド出身）が国際協会の次期国際書記長（ISG）に選ばれました。同氏を私たちワイズメン運動のこの要職に指名した人事委員会の推薦を、国際議会が全会一致で承認した結果です。

ジョースは、2018年10月1日にこの職に就任しました。前任の西村隆夫氏（愛称ニシ）は2019年2月末まで勤務し、ジョースへの引き継ぎを終えて退職する予定です。

ジョースは、1973年1月生まれ、インド・ケララ州で学校・大学教育を受けました。ケララ州のマハトマ・ガンディー大学理学部で数学を専攻、卒業し、公認会計士となる研修を受けたのち、1996/97年のYMCA 主事資格認定のために、バンガロールのインド YMCA 同盟研修センターでキリスト教青年事業の修士免許を取得しました。

ジョースは YMCA の有資格職員として、故郷の近くのアルヴァキャンプセンター勤務を皮切りに、地域 YMCA からインド全国 YMCA 同盟の運動強化・財源動員担当主事へと職歴を進めました。その後同氏は、アジア・太平洋 YMCA 同盟のプログラム担当主任主事となって香港を基盤に勤務し、同時に世界 YMCA 同盟総主事の顧問の地位を得て地球市民プログラムのために活躍しました。

ワイズメンの国際書記長に選ばれたとき、同氏はジュネーブの世界 YMCA 同盟で指導者養成・財源動員担当の主任主事を務めていました。このように同氏は、地域から国

際までの YMCA の長い経歴を持ち、また、ワイズ国際協会の国際委員会メンバーも経験した、非常に献身的で有能な人物です。

2022年の国際協会100周年に向けてワイズの運動を盛り上げていくうえで、ジョースは今後の4年間で、記念行事の最終準備と次の100年の運動の構築の時であると信じています。韓国・ヨスでの就任挨拶の中で

同氏は、この期間がワイズメン皆にとって世界中での社会奉仕活動を祝う備えの時であり、ワイズ運動の「社会的適合性」、「成長」、「可視性」、「資源」、「影響力」を増すために、ワイズの使命を確認し、組織や運営を革新する再献身の時であると強調しました。「これらのキーワードを今後何度も私から聴くことになるでしょう。これらが私たちの未来を切り開く鍵となるものだからです」と同氏は結びました。

ジョースは教員であるマンジュさんと結婚し、ケララ州コチで高校を終えようとしている16歳の子息がいます。

ジョースは国際書記長としてタイのチェンマイに在勤し、ジュネーブの国際本部の運営を監督するとともに、ワイズ運動の発展のために世界各地を訪問することが期待されています。

コシー・マシュー



新ワイズメネット国際主任

先日のオーストラリア区女性 Y サービスクラブ年次総会（イーグルホークのピーター・クレンツ・レジャーセンターにて）で、感動的な場面がありました。3人の元ワイズメネット国際主任が新ワイズメネット国際主任ジェニファー・キャメロンさんの就任式を執り行ったのです。

元国際主任パム・クラモンド（1983-84）、シャーリー・アンマック（1991-93）、ブレンダ・ベリー（2000-02）（全員バンディゴ女性 Y サービスクラブ）の諸氏が新国際主任ジェニファーさん（写真右端）の就任式に参加しました。

ジェニファーさんは、2003-05年にも国際主任を経験しているので、今回は2度目の務めです。ジェニファーさんの母の故ベリル・ジョーンズさんも元国際主任（1979-81）でした。

ジェニファーさんの国際主任としての初仕事は、8月初め韓国ヨスでの国際議会に、全世界のワイズメネットを代表して出席することでした。続いて開催された同地での国際大会にも参加しました。

バンディゴ地区は強い Y サービスクラブの歴史を持ってい

ます。何しろ過去40年間に同地のクラブから5人のメンバーが国際主任の地位を6回も占めているのですから。



2018年バランタイム賞受賞者 — 藤井寛敏氏

元国際会長藤井寛敏氏は、私たちワイズメンの運動に会員として40年以上の経歴を持ちます。1976年3月に、(東)日本区の東京江東ワイズメンズクラブに入会、以来一貫して同クラブの活動に参加し、積極的な、熟練したリーダーとして、クラブから国際までのワイズの組織の諸段階に関わってきました。

同氏は1981年にクラブ会長、1987年に区CS事業主任、1992年に当時の東部部長を務めました。2004年に東日本区第8代理事となり、傑出した奉仕によりその年度の最優秀理事賞を受賞しました。2008年に当時のアジア地域の地域会長を務めました。

2009年の国際選挙で、藤井氏の献身的関わりが評価され、同氏は2010/11年度の国際会長に選出されました。その会長任期中に国際大会が横浜で開催されました。藤井会長はこの大会の実行委員長として準備段階から尽力し、熱心な委員たちと共に素晴らしい大会を実現しましたので、日本政府観光局から「国際会議誘致開催貢献賞」を授賞されました。

元国際会長となった藤井氏は、2016年の国際大会の大会委員長を務めました。昨年度は、2018年国際大会委員と、「Towards 2022年 & Beyond」チームの委員を務めました。今

年度も同氏は、2020年国際大会委員会と国連プロジェクト委員会の委員として、独特の献身、思慮深さ、信頼度をもってワイズ運動への奉仕を続けられることでしょう。

個人的および職業的な方面においても、藤井元国際会長はリーダーシップを発揮されてきました。開成中学・高校時代は応援団の団長として、高校ではまたアイスホッケーチームのメンバーとして活躍しました。高校卒業後は東京の慶應義塾大学で学びました。職業的には、同氏はいくつかの化学関係の事業を運営してきましたが、現在は、東京にある株式会社中央システムズの社長です。

同氏は、妻祥子さんとの間に2女(彩さん、礼さん)1男(祐輔さん)があり、3人の孫の祖父でもあります。

会社やワイズの奉仕、家族サービスがない日は、藤井氏は友人とゴルフやテニスに興じます。

国際協会への長年の比類のない貢献は、藤井元国際会長を顕彰するにふさわしいものであり、同氏の無私にして疲れ知らずの貢献はこれからも変わらず続くことでしょう。(授賞式での献辞から)



弛まぬ地域奉仕者の横顔

以下は、ミッドランドミラー紙のご厚意により、2018年5月5日付け同紙に掲載されたジセル・ウイントン・サーヴィスによる、我々の活動にとり大変名誉な記事を再掲したものです。ティムは、93年間に及ぶミッドランド・ワイズメンズクラブで唯一2度にわたり会長に選出されました。

カナダ・オンタリオのミッドランドの人ならティム・ダンロップを知らない人はいません。このミッドランドの住人は、彼自身の20年にわたる時間の大半を、ミッドランド・ワイズメンズクラブを通じて弛まなく無償提供してきました。

66歳のダンロップは長年にわたりワイズメンズ音楽祭の委員長を務めるとともにYMCAや地域の様々な団体のために数万ドルに及ぶ募金活動を支援してきました。

「家内も私も地域社会志向の人間です。これは、地域社会へのお返しの良い方法であり、とても楽しいことです」とダンロップは言います。

クラブは、ミッドランドYMCA、ジョージアンベイ総合病院、ビッグブラザービッグシスター、ウエングット地域計画、ヒューロニア遷移ホーム、キャンプキチケワナ他各種の対象に対し、多岐にわたる募金活動を通じて支援してきました。

「我々が関わらなかった活動はほとんどなかった」というダンロップは、74年目となる音楽祭を最も誇らしく感じており「私自身は音楽的ではないが、地域社会の才能を見届けることで元気づけられる」とも言います。

音楽祭は、プロの音楽家を目指す子供たちの人生を形作るの



12歳の愛犬ジャック・ラッセル・テリアの“バックス”に、1925年12月3日に設立されたクラブが現在も変わらず活動的であることを示すミッドランド・ワイズメンズクラブのティム・ダンロップ

を支援してきました。最も有名な卒業生の一人に、ラグタイムのショパンと称される故ジョン・アーピンがいます。年間、最大600名の子どもたちがコンクールで演奏し、ワイズメンは音楽奨学金を提供します。「我々は地域の羨望の的ですよ」とダンロップは言いました。

この代表的なイベントに次ぐ、クラブの第2のプロジェクトはYMCA支援です。プロジェクトには水泳プールへの支援も含まれています。「我々はYMCAでの存在感を取り戻したい」とダンロップ。その目的で、最近ワイズメンズクラブは、金曜の夜に無料7ページ下段へ続く

ワイズメネット活動のより良い多様性に向けて

韓国・ヨスでの 2018 年国際大会のワイズメネットフォーラムに提出された報告書

ワイズメネット国際主任 ジェニファー・キャメロン



ワイズメネットのより良い多様性について議論するにあたり、最初に一体誰がワイズメネットか、また、私たちは、今日の、更に未来のワイズメンズクラブ国際協会の一体何処に位置するのかにつき活発に議論する必要があります。

「ワイズメネットとはワイズメネットクラブのメンバーで、ワイズメンの伴侶またはワイズメネットクラブでの交流を楽しみたい、または、YMCA および地域社会に対するワイズメンのプロジェクトを支えたいと思うすべての女性のことです。」

最初のワイズメネットクラブは、1924 年カナダのバンクーバーに設立されました。当時は、ワイズメンの伴侶のみがワイズメネットになることができました。1970 年代になり、「女性の地位」および「ワイズメン」との婚姻関係にない女性に如何なる選択肢があるか等、様々な議論が展開されました。例えば、もし男性がワイズメンを退会したあるいは亡くなった場合、女性はワイズメネットクラブを退会する必要があるのだろうか、また、独身女性がワイズメネットクラブに加入することができるだろうか、といったことでした。

1973 年に新たな国際協会の憲法が制定され、それにはこう述べられています。

「各々のワイズメンズクラブは、男性のみ、女性のみ、またはその両者により構成される。また、各々のワイズメンズクラブを支援する女性のみで構成されるワイズメネットクラブも設けることができる。」

国際憲法は、明らかに女性に選択権が与えられることにつき積極的です。女性は、ワイズメンになることもワイズメネットになることも可能となりました。ワイズメンの伴侶は、最早、自動的にワイズメネットになることはなく、彼女自身がワイズメンになることも可能となりました。また、現在その会員は、ワイズメンの伴侶に制限されることはなく、ワイズメネットクラブは、多くの女性の加入で助けを得ています。

今日、世界各国のワイズメネットクラブは、更に組織的な仕組みになりました。しかし、一方では、全てのクラブがチャーターされ、また、財政的な義務があることを認識してもらうという課題があります。1987/88 年度、国際協会は、その活動の中において、ワイズメネットが全面的なパートナーとなることを求めました。ワイズメネットはそれを受け入れ、投票によって、毎年、ワイズメネットの国際活動の経費の一部を負担することを決定しました(1987 年当時はひとり当たり 1 米ドルの負担でしたが、その後、2 スイスフランに増額しています)。こんな素晴らしい組織に連なることを思えば決して高いものではありません。

今日、世界各国のワイズメネットクラブは、更に組織的な仕組みになりました。しかし、一方では、全てのクラブがチャーターされ、また、財政的な義務があることを認識してもらうという課題があります。1987/88 年度、国際協会は、その活動の中において、ワイズメネットが全面的なパートナーとなることを求めました。ワイズメネットはそれを受け入れ、投票によって、毎年、ワイズメネットの国際活動の経費の一部を負担することを決定しました(1987 年当時はひとり当たり 1 米ドルの負担でしたが、その後、2 スイスフランに増額しています)。こんな素晴らしい組織に連なることを思えば決して高いものではありません。

今日、世界各国のワイズメネットクラブは、更に組織的な仕組みになりました。しかし、一方では、全てのクラブがチャーターされ、また、財政的な義務があることを認識してもらうという課題があります。1987/88 年度、国際協会は、その活動の中において、ワイズメネットが全面的なパートナーとなることを求めました。ワイズメネットはそれを受け入れ、投票によって、毎年、ワイズメネットの国際活動の経費の一部を負担することを決定しました(1987 年当時はひとり当たり 1 米ドルの負担でしたが、その後、2 スイスフランに増額しています)。こんな素晴らしい組織に連なることを思えば決して高いものではありません。

地域の最前線における各ワイズメネットクラブは、自らの地域社会プロジェクトを持つこととなります。それらは、ワイズメンズクラブや YMCA との協働や、あるいは自ら資金集めをして運営する地域社会プロジェクトであっても構いません。このことは、自らの地域社会に対して価値あることを行っているという思いを得ることができます。それはまた、会員にとって、前向きな成果を達成するために共に働く機会を提供することにもなります。

独立プロジェクト

ところで、皆さんはワイズメネットの国際プロジェクトがあるのをご存知でしょうか。これは 2 年計画で、世界中のワイズメネットにより資金提供されています。全てのクラブは、この価値ある目的のために資金提供することができ、そのように促されてもいます。このプロジェクトは、主に、世界の様々な場所において女性、若者、子供たちを支援するものです。プロジェクトは、通常、TOF プロジェクト申請の中から 3 つの候補が示され、クラブの投票によって選ばれます。

イタリア・シデルノの 2016/18 年プロジェクト(次頁の囲み参照)は、既に成功裏に完結し、新たなプロジェクトとしてアルバニアのチラナでのものが近々開始されます。このプロジェクト選定に投票できるのはチャーターされたクラブで国際会費支払い済みのワイズメネットクラブでなければなりません。何百ものクラブが有資格者にもかかわらず、残念なことに、その権利を行使したのは 17 クラブに過ぎませんでした。私たちとしては、どのプロジェクトがワイズメネットにより資金供与されたかが分かるよう、これらの情報が確実に各ワイズメネットクラブに届く様にする必要があります。

この情報は、地域や区のワイズメネット事業主任たちにも下りてこなければならず、全てのニュースレターや情報が間違いなく各ワイズメネットクラブに届けられるよう真剣に役割を果たしていただきたいと思います。eメールは、各クラブへのコンタクトに大切な役割を果たしますが、全てのワイズメネットが eメールを使用しているとは限りません。各クラブでどなたか eメール担当を決めていただき、情報が全てのクラブ、全ての会員に届くよう責任を持っていただきたいと思います。国によっては、言葉の障壁があることは分かっています。地域や区の主任は、情報を地域の言語に翻訳するのを手伝ってください。全てのクラブに情報が届けられるようになれば、より強固な組織へと発展することができます。

姉妹クラブプログラム

ワイズメネットのもうひとつのプログラムは「姉妹クラブプログラム」で、これはまた、異なった方法での他クラブとの情報交換や学びです。ふたつのクラブがお互いに交信することで、クラブ間に素晴らしい繋がりが構築されます。姉妹クラブは、2 つのクラブが同じ区や地域、また世界の異なった部分に所属することもあり得ます。私自身のクラブはオーストラリアですが、カナダの 2 つのクラブ、日本とインドの 1 つのクラブと姉妹関係にあります。私たちはブリテンや手紙を交換するとともに、私たちのメンバー

たちは、他のクラブのプログラムやプロジェクトあるいはイベントなど、何をしているかを知ることを楽しみにしています。

国際大会に出席して、姉妹クラブの方々にお目にかかるのも素晴らしいことです。ここでもeメールはコミュニケーションに大きな役割を果たします。私たちの国際姉妹クラブコーディネーターのアン・ムンロ(カナダ)は、喜んであなた方と他のワイズメネットクラブとの双方に有益なペアリングを行いますので是非ご連絡ください。

利益 (Benefit)

ワイズメネットに対して私ができること。まずは参加すること。

- ・ 集会への出席
- ・ プロジェクトへの参加
- ・ 他メンバーへの慶弔時の支援
- ・ ワイズメネットクラブでの役割を務める。クラブで自信をつけることにより、おそらく区での役割も果たせるようになるでしょう。

妻として、母として、女性としてあなたは、あなたのワイズメネットクラブに多くのスキルを持っていくことができます。—それを活用してください! あなたは、よきまとめ役ですか? それともよき料理人ですか?あるいは他の人たちと交信することが好きですか? そのスキルが何であれ、ワイズメネットクラブには必ずそれが役に立つ役割があります。

ワイズメネットでいることにより得られるものは何でしょうか?

第1は、クラブに所属している楽しさと仲間付き合いです。更に

- ・ 所属するクラブ内、あるいは区内、国外のクラブメンバーとの間で醸成される素晴らしい友情
- ・ 素晴らしい喜びの時、あるいは深い悲しみの時に互いを支え合うこと
- ・ ゲストスピーカー、クラブメンバー仲間から、あるいはプロジェクトの集まりを通しての学び
- ・ プロジェクトや価値ある目標に対する資金集めを成功裏にやり遂げた時に味わう満足感
- ・ 自己成長—クラブ活動を楽しみ続けることによって、生き活きと

5ページ下段より

で開催される若者たちの夕べのプログラムに7,500ドルを寄付しました。「最初は、毎週20～30人の若者が参加していました。今では、それが300人近くになっています」

ダンロップは、クラブが如何に地域に奉仕をしているかを若者に知ってもらうためにも、若者の夕べにもっと多くのクラブメンバーが参加してくれることを願っていると言っています

毎年、ブライソン・マッカーター・ゴルフ大会では地域プロジェクトのための資金集めをします。クラブの最大のプロジェクトの一つは、病院のベッドを購入するため、5年間で5万ドルの献金をしました。

小規模のクラブにしては顕著な資金集めおよび地域への還元がありました。一時期クラブは90名のメンバーを誇りにしていました。最近では12名です。

ダンロップは、「我々は全ての奉仕クラブと同じように会員増強に努力している」と言います。火曜の夜の6時から8時までの

イタリア・シデルノでのワイズメネットプロジェクト

ワイズメンズクラブの公式 TOF プロジェクトになってはいませんが、昨年私たち、ワイズメネットが支援プロジェクトとして選定した、イタリアのシデルノ YMCA でのプロジェクト「早く学び賢くならよう、難民に力を与えよう」を認識しておきたいと思います。



このプロジェクトは、難民や移民の人たちが地域社会に適合するのを支援する先駆けです。第1段階として、双方の違和感を取り除き、移民への実用的な教育を提供した彼らに感謝しましょう。

最初の数か月間、この YMCA プログラムは、約30人に対してイタリア語と料理の講座を提供しました。

シデルノ YMCA ならびにワイズメネットの皆さん、ありがとう!

(出典:2017年2月、Facebook “YMI TOF”ページ)

した組織の一員であることから得られる自信。私たちは、ほんの数年前まで、決してできるとは思えなかったクラブの中での役割を果たすことができる。

・ 他のワイズメネットと会えること。自分が所属する地元のみならず、区、地域、国際の大会の機会等で。

あなたが今日ここにいるのは、あなたがワイズメネットであるからであり、来たばかりの時は余り多くの人を知らなかったのが、数日の後には大勢の新しい友人ができており、将来、その人たちとの再会することを楽しみにします。ワイズメネットであることを楽しむと同時に他の人たちも、あなたのクラブに加わるよう奨めてあげてください。

ワイズメンズクラブ国際協会のモットーは「強い義務感を持つよう 義務はすべての権利に伴う」です。もし、私たちが自分のワイズメネットクラブや国際ワイズメネットに対する義務を認識すれば、未来につながる輝かしい、成功する組織を持つことになりましょう。

「ボートハウスレストラン」での気楽な夕食会は、クラブが面白そうかどうか自分の目で見たい人はだれでも大歓迎です。これぞ正にダンロップがワイズメンズクラブでの活動を如何にスタートさせたかと言うことです。彼は20年前にミッドランドに引っ越してきて、奥さんのマリー共々投資計画審議会の共同所有者および運用者となったとき集會に招待されました。

彼は、最近リタイヤし、以前に増して多くの時間を地域活動に割いています。

ダンロップは、また、セントマーガレット・ローマカトリック教会の助祭ならびにコロバス騎士団の大騎士を務めています。

長年のワイズメンズクラブ仲間のアラン・コンドレンは、ダンロップはクラブにおいても地域社会においても極めて熱心なメンバーだと言います。「役割分担表が回って来ると、必ず彼の名前が書かれています。彼は仕事を恐れませんが、これはまちがいです。」

インターナショナル・ユース・コンボケーション、8月6日～12日に開催

第17回インターナショナル・ユース・コンボケーション(IYC)が、ワイズメンズクラブ国際協会(YMI)の第73回国際大会(IC2018)が同時に開催されていたヨスからそれほど遠くない、全南大学で開催されました。参加者は28か国から75名で、ワイズ運動が行われているすべての地域から参加がありました。コンボケーションでは、テーマである「強いコミュニティより良い世界」に焦点が当てられました。

インターナショナルユース代表(IYR)であるリカルドサルデナスが、ICYC2018が開会したことを宣言しました。プログラムオリエンテーションとワイズメンズクラブ国際協会の概要について、ステファニー・スペンサーが担当し、リカルドがアイスブレイキングであるワイズリンピックを主導して行いました。

絵本プロジェクトは、ICYCの分科会の中で最も成功したものとなりました。参加者は絵本についてグループ協議を行い、最も良い物語を選びそれを演じました。そうすることによって、コミュニケーション・スキルの向上が図られました。絵本はその後集められ、新しく設立されたラオスYMCAとアジア・太平洋YMCA同盟(APAY)を通じてラオスの子どもたちに寄贈されました。

ワイズリンピックの一つのセッションは、地域の孤児院の子どもたちとともにスポーツ大会となりました。子どもたちは私たちと遊ぶことをあまりにも喜んでいたので、終わりには別れるのがつらくなったユースもいました。

特別講演の講師は、アジア・太平洋YMCA同盟のナン・ブー・ウォン総主事で、YMCAとワイズメンズクラブ国際協会の関係

について講話がありました。

私たちの国連プロジェクトである「暴力にはノーと言おう」は、韓国・韓東大学のスタッフがリードして進められました。参加者は、各国でユースが直面している事象や課題について協議し、その結果をレポートの形で発表しました。

ヨスタワー、ヨス博物館へのフィールド・トリップは、良い経験になりました。ヨスの歴史を知るとともに、有名なヨスのケーブルカーも楽しみました。私たちはまたヨスエキスポセンターでのワイズメンズクラブ国際協会国際大会開会式に旗手として参加しました。国際議会議員がICYCの2日目に会場を訪れ、彼らの経験を分かち、我々を祝福してくれました。

「地域ユースの計画立案」のセッションでは、それぞれの地域が来年の事業や活動を計画するのに役立ちました。その間に、元IYRであり、現在はジュネーブのワイズメンズクラブ国際協会本部に勤務しているジェームズ・オレが見守る中、選挙が行われ、インド地域のシェリン・ウィルソンが2018-2020年のIYRとして選ばれました。最終日に、ステファニー・スペンサーがICYCの報告をIC2018の中で行いました。

毎朝、異なった地域のチームがモーニング・ディボーションまたはメディテーションを行う一方、夕方の文化的なパフォーマンスはプログラムに大きな楽しみをもたらしました。そしていつの間にか、一番つらかったのは、最終日のお別れのことばでした。

ユース地域代表(インド)ディヤ・ビジェイヤン



ムン国際会長、西村国際書記長および他の国際議員



エドワード・LTOD 国際事業主任の励ましのお話



旗手を務めるAYR(インド)



別れの挨拶をする直前の写真。家に大切に持って帰る1枚の写真

平和と国連とワイズメンズクラブ国際協会会員であること シルビア・レイエス・デ・クロチ

今年は、世界人権宣言が採択されて 70 周年となります。国連・経済社会理事会 (ECOSOC) の特殊諮問資格を持つ NGO として、ワイズメンズクラブ国際協会は、その立場から求められる原則への基本的な関わりを大切にしています。2018 年の後半に開催される 3 つのイベント、つまり 9 月 21 日の国際平和デー、10 月 24 日の国連デー、12 月 10 日の記念すべき国連難民高等弁務官事務所設立 70 周年記念に合わせて、元編集長である女史に特別寄稿をお願いしました。

10 月 24 日が国連デーと指定されているのは、1945 年のまさにこの日に国際連合が発足したからです。以来、国連は 73 年間に賞賛よりも、多くの批判を受けたと思われます。



国連は、期待に添わなかったでしょうか。国連は、平和や安全を維持し、平和への脅威や侵略行為を阻止したり取り除いたりする、効果的で集団的な方策を講じるという公約を実現したでしょうか。国連は、国連自体と参加国が行動の原則としている、平和的な方法によって、また正義の原則および国際法に則って、国際的な紛争を解決できたでしょうか。

矛盾との共存

私たちは、毎日世界のどこかで緊張が高まっていると聞きます。そして私たちは、破壊、飢餓、死、母親の嘆き、罪のない子どもたちの苦しみなど、心ならずも多くの武力闘争で武器が使用された結果を見る目撃者となります。破壊は、住宅や市全体に及び、さらに環境自体にも及んでいます。このような破壊の映像は、悪魔(悪意)がそれほどまでにあるということを感じることを拒否している我々の目の前を、万華鏡のように通り過ぎます。

しかし、9 月 21 日には、毎年、世界は国際平和デーを覚えます。求めることなく入ってくる多量の情報の虜になってしまっている私たちは、平和よりも紛争のニュースのほうがよく「売れる」ということを忘れがちです。私たちは、歴史の川縁が赤く血に染まって見えるものの、声なき大衆が、私たちすべてが現在住んでいる、これからも住む世界を作るために、今までも、これからも日々努力を続けてきたことを忘れがちです。そして、この努力が何世紀も続くことを願うものです。

国連憲章は、当時、憲章が謳っていた参加国の主権的な平等を決して意図していませんでした。「拒否権」は歴史的な事情の結果であり、第二次世界大戦の終了時に支配的な役割を果たしていた連合軍と、総会で国際平和や国際安全の領域で自分的

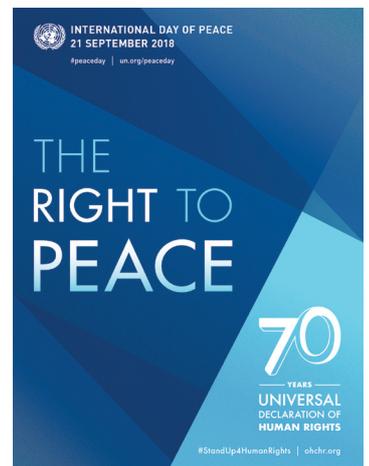
シルビア・レイエス・デ・クロチは、法学・社会学博士で、弁護士であり、共和国立大学(ウルグアイ)法学部の教授です。1982 年以来、シルビアは、ワイズメンズクラブ国際主任、ラテンアメリカ地域選出国際議員・地域会長、ワイズメンズワールド編集者など、ワイズメンズクラブ国際協会のいくつかの役職を担ってきました。また、2001 年にはハリー・バラントイン賞も受賞しています。現在はワイズメンズクラブ国際協会憲法審査委員会委員長を務めています。

ちの声が完全に否定されるのを避けようとした中小 53 ヶ国の妥協の産物です。この妥協が無ければ、国連は設立できなかったでしょう。

シナリオの書き換え

73 年間に、そして 21 世紀になってかなり経ち、世界は変わりました。国連参加国も 193 ヶ国(常任理事国の数でさえ同じではありません。)となりました。しかし、大きな国連憲章の改訂はうまく行われておらず、その理由は政治的な意図が無いからです。世界のシナリオが変化し、これからも変化し続けるので、国連も変化しなければなりません。国際的なシステムが、国境を越えた組織的な犯罪、サイバー犯罪、テロなどの脅威にさらされています。国連事務総長たちの行動は、多少、より鮮明な判断やより良い効率性に貢献しています。2014 年、潘基文(パン・ギムン)事務総長は、平和活動、平和構築のための基本設計概念、女性と平和と安全保障の関係の将来像を検討するための高官による委員会を設置することを要求しました。3 つの委員会は、信頼のおける、法に準拠した、資源豊かな国連が解決の一つであると結論付けました。以下にこれらの委員会の提案事項を紹介します。

1. 戦争を防止することが命を救い、コストを下げる唯一の方法です。参加国がもっと負担を分担して、組織全体に防止の文化を採用することが必要です。平和を「構築することよりも平和を「持続可能」にすることに焦点を移すべきです。紛争後の環境整備は追いついていません。同じことが「持続可能な開発目標 16」にも言えます。これは単に



平和的で開放された社会の推進を求めているに過ぎません。

2. 平和維持の体制と機能は、現地の状況によって決められるべきで、国連本部で政治的な駆け引きで決められるべきではありません。平和維持軍がいつ現地入りするか、どのくらいの期間滞在するか、いつ終了するかなどについて、安全保障理事会がより柔軟に決めるべきです。

3. 戦略的なパートナーシップは必須です。国連の各局は、平和実現に影響のある地域の団体、非政府団体、市民団体等に働きかけるべきです。国連が資源を提供する活動は、人が優先であり、

国際議会 8月4日～8日



アルバムへの1枚:公式に国際議会議員に就任した後の記念写真



新たな役割:(左から)務めを終えるヘンリー国際会長がムン新国際会長に公式国際会長バッジを着装。直前国際会長バッジがムン氏からジェニファー・ジョーンズ新次期国際会長へ。2期目の任務を始めるに際して、フィリップス・チェリアン国際会計にジェニファー次期国際会長から敬愛しつつバッジを装着。



新ワイズメネット国際主任(ID)の就任。務めを終えたカナダのキャロル・ダンバーがオーストラリアのジェニファー・キャメロンへ。右の写真・国際議会進行中



分科会:運動の舵を取る様々なことごとらについて、国際議員が少人数のグループに分かれて話し合いを行った。

2018年国際大会 8月9日～12日 韓国・ヨス



スポットライトを浴びて。開会式での新役員とその配偶者



基調講演者:Yong-ok-Kim 教授



大会会場



ムン国際会長の就任スピーチ



西村国際書記長の報告



ムン国際会長と現・新国際書記長



会場一杯の聴衆が聴き入る



フォーラムでの議論:大会内の様々な会場でいろいろなテーマで。

編集者注:このページと裏表紙の写真は、ロシアの元理事の Aleksey Vasilyev のご好意で同氏のフェイスブックページから転載させていただいた。

特別寄稿／個人的なことですが・・・

9ページより

現場に焦点があたっていなければなりません。

4. 国の「平和」を所有する権利は、困難ではあっても、基本的なことです。所有権は国家政府に限られるべきではなく、政党、労働組合、商工会議所、女性団体、退役軍人の団体、マイノリティグループ等にも拡大されるべきです。重要な役割を担う人が平和の実現過程から阻害されると、紛争が再開される可能性がずっと高くなります。

5. 平和の創造、維持、構築過程のすべての場面で女性の参加がより活発になるべきです。

ワイズメンズクラブ国際協会において、私たちは何ができるか？ 私たちが持つ国連・経済社会理事会 (ECOSOC) の特殊諮問資格を維持できるのは、私たちの活動が持続可能な開発目標 (特に目標 16) に焦点を当てているからです。またそれとは別に、国際的な団体として、ワイズメン、ワイズウイメンとして、私たちは、世界が必死に求めている平和は、自分たちの内部から来るべきものであると知っています。私たちは、自分たちの真実は隣人の真実と同じであること、その真実は、間違っていると証明されない限り、尊重されるべきであることを、内からの確信で理解しています。他の宗教的、政治的あるいは経済的な信念の強みに勝とうとして暴力に走ることは、守ろうとしている信念を傷つけ、弱め、否定や消滅へ追いやりませぬ。

ワイズメンズクラブ国際協会は、平和に対して最も効果的なツ

ルを用いて、百年に及ばんとする奉仕の命を守ってきたことを誇りに思うべきです。そのツールとは私たちのモットーであり、偉大な人物で創立者であるポール・ウィリアム・アレキサンダーが言った「強い義務感を持つ 義務はすべての権利に伴う」というものです。世界中の 70 ヶ国近くに広がったクラブのメンバーである私たちは、この素晴らしいモットーによって生きるだけではなく、それ以上のことをすべきです。すべての人に聞こえるようにモットーを大声で宣言すべきです。さらに義務を果たすことや、権利よりも義務を優先することで、平和や人権を守るために叫ばれるどんなキャンペーンやスローガンよりもずっと効果的に、すべての権利を守っていることを、みんなに理解してもらえるように、モットーを声高に宣言すべきです。他の人々への自分の義務、環境への義務、世界への義務等、人間としての義務は私たちの最大の関心事です。義務を果たすことが、私たちの平和へのツールです。ワイズメンズクラブ国際協会の中では、対立は不健全なものであって、平和は元々内に備わっているものです。ですからあるべき姿を求めましょう。

9月21日の国際平和デーには、他の人々が私たちの周りに来て、モットーを聞き、理解し、私たちがモットーを広めることを支援してくれるように、できるだけ表に出て祝いましょう。そうすれば、垣根を越え、どこにしようと、どのような環境であろうとすべての人々が、全人類のためにより良い世界を作ることを目指し、リーダーシップを伸ばし、奨励し、提供することを理解することとなるでしょう。

オブザーバーとして思ったこと

私は、韓国・ヨスにおける国際議会にオブザーバーとして参加をする幸運に恵まれ、その後国際大会に参加しました。私は、ビジネスミーティングというものがどのように行われ、また行われるべきかという点について全く新しい観点を心得てインドに帰国しました。細部にわたる準備がなされ、議会運営に相応しいプロセスと礼儀をもって実行されていました。議会運営の秩序は、提案に対して反対意見や異論を述べたりする場合にも保たれており、もし私が自叙伝を書くとしたら、それだけで新しい 1 ページが書けると思いました。

国際大会は、3,000 人を越える参加者がおり、セレモニーや会議が整然と行われる一方で、お祭り気分も大いに感じられる、大きなイベントでした。参加者は、毎晩、伝統的な踊りからヒップホップダンスに至るまで広い範囲の文化的なパフォーマンスをたくさん見せてもらいました。私としては、これを見ただけでも韓国まで行った甲斐がありました。

ヨスは、人口 30 万人の小さな都市ですが、霧に包まれた山々と海岸に恵まれた朝鮮半島の中でも最も美しい都市の一つです。様々な会合に向かう長いバス旅のおかげで、その素晴らしい景色を眺めることができました。

しかし、最も良かった点は、韓国料理と韓国の人々のおもてなしの心です。プルコギ、ビビンバ、キムチなど舌を噛みそうな

名前の食べ物ですが、肉、魚介類、豆腐、野菜など、どの料理もおいしくいただきました。私にとってお箸を使うことが感激でした。時々うまくいきませんが、何とかお箸を使うことができるようになったと思います。

ヨス YMCA への訪問は、目を見張るものがありました。ヨス YMCA には約 5,000 人の会員がいて、すべての会員がプログラムに参加しています。実際に若い人々がプログラムに参加しているところを視察しましたが、特に生活向上や技術再習得のプログラムを中心に見学しました。ワイズと YMCA がお互いに有益で支え合う関係にあります。この訪問を通して、両者が協力をする、地域のためにどれほど多くのことができるかということに改めて学びました。

思い返すと、とても良い時間を持つことができました。効率よく準備し、運営をした韓国のワイズメンに賞賛の言葉を贈ります。また、温かいおもてなしにも感謝いたします。

個人的になりますが、私はこの訪問から大変多くのことを学びました。韓国のみならず、ありがとうございます。ワイズメンズクラブ国際協会、ありがとうございます。カムサハムニダ!

インド・バンガロール ジョージ・トーマス



何が我々の成長を阻害しているのか？

元国際会長 アイザック・パラシナル



組織の成長を図る物差しは沢山あります。資産・利益の増加、サービスの拡大、数字の増加などがあるでしょう。ワイズメンズクラブ国際協会(YMI)のような非営利団体では会員数の増加やサービスの拡大が真の成長の証しでしょう。我々がこの分析を始める前に、2010年に日本の横浜で開催された国際議会で採択された高邁な「ビジョン」と「Towards 2022」(2022年に向けて)計画(下記の囲みを参照)を見直してみましょう。8年後の我々の現在の状況はどうでしょうか？正直いって、私たちはほんのわずかも前進していません。逆に私たちは5年前の状況に逆戻りしています。2012-13年を頂点にして、私たちの会員数は、ほとんどすべての地域で下落しています。私たちは、計画で提案された方法では、全世界的に私たちの運動を強化するのは困難だと言わざるを得ません。

何故この下降現象なのか？

この状況にはいくつかの要素があります。国際、地域、区レベルでの真剣な論議から、幾つかの阻害要因が見つかりました。それらの幾つかは:

- ・多くのクラブやその役員が私たちの「ビジョン」と「Towards 2022」計画を理解していないこと
- ・会員拡張は、単にリーダーのゲームの様に見えること

ビジョン

私たちが生きる世界をより良くするために、「強い義務感を持つ 義務はすべての権利に伴う」をモットーに掲げながら、積極的な奉仕とYMCA、国際連合、その他の相応しい組織との緊密な協力関係に務め、人としての価値を高めることに努力する、強力で献身的なメンバーによって、若者の成長に特に焦点を置きつつ、社会に認められ、常にグローバルな視点を持って活動する自発的奉仕組織となること

2022年に向けて(改訂版)

1. ワイズメンズクラブ国際協会のメンバーを最低100か国50,000名に増やす。
2. 以下により、ワイズメンズクラブ国際協会を世界的なレベルで強化する:
 - ・YMCAと地域社会に対して適切なサービスを提供する
 - ・私たちの社会的イメージを高める
 - ・ワイズメンズクラブ国際協会およびその使命に対してのメンバーの認識を向上させる。(2018年韓国・ヨスでの国際議会で採択)

- ・メンバーの高齢化および若い世代が参加に気乗りしないこと
- ・会議が長く、退屈なこと
- ・真の意味での仲間意識の欠如
- ・新入会員と新しい役員に対する適切なオリエンテーションとトレーニングがないこと
- ・YMCAとの歴史的な関係を活用出来ていないこと
- ・私たちの運動への、世間における非好意的なイメージ
- ・良かれと思い国際レベルで合意された決定が地域、区レベルで否定的な結果に繋がったこと

もしも、これらの要素が、阻害要因だとしたら、どのように、これを克服し、国際レベルで運動を強化し、会員を増強するのでしょうか？我々に必要なのは、3方面でのアプローチと以下の行動です。

- ・地域と区レベルでの会員の維持
- ・地域と区レベルでの会員増強
- ・国際レベルでの会員の維持と増強

地域と区レベルでの会員の維持

我々の「ビジョン」と「Towards 2022」計画は未だ末端まで浸透していません。リーダーと主要な会員へのトレーニングは、会員増強によって私たちの運動を強化する「Towards 2022」計画に特別な重点を置いて行われなければなりません。

- 我々のアクションには次のような項目が考えられます。
- ・不必要な長い形式的な儀礼や長々としたスピーチを除外することで例会をもっと面白いものにする。
 - ・クラブの戦略発展にもっとワイズメン、ワイズメネット、ワイズユース、コメントを積極的に包含する。
 - ・クラブを本当の家族のように形成する。

各地でワイズメンズクラブ国際協会(YMI)とYMCAとの良い関係を確立し、YMCAのためというより、YMCAと共同して活動するほうが双方の組織にとって有益になります。地域(エリア)レベルでの特徴ある、かつ普遍的なプロジェクトがより良い影響を作り出すでしょう。

もし、プロジェクトがRBM(ロールバックマラリア)のような全世界的なものであれば、会員は、共通の課題に対し、すぐにも行動に移せる計画を容易に実践できるのではないのでしょうか。このようなプロジェクトは、新規の会員を勧誘する時のユニークなツールにもなります。これらとあいまって、私たちのサービスプロジェクトが一般社会に目につくようになる努力が必要です。それは、ある地区ではメディアとの関係を作り出すことですし、また他の場合では、一般を対象とした集会、チャリティーラン、ウォークソン(マラソンする

E+MC: 内省

のではなく歩く)、街頭での演劇、公会堂でのコミュニティー集会などが挙げられます。

大部分のリーダーは、国際協会のウェブサイトで手に入る「Welcome to Y's Men International」(ワイズメンズクラブ国際協会による)や「Duties and Responsibilities of Area Presidents」(地域会長の義務と責任)といった様々なトレーニング用資料を用いていないのも事実です。これらをダウンロードして、ご自分の地域で作成された冊子等と一緒に使えば、会員の興味と情熱を引き付けていくのに役立ちます。



地域、区での一層のエクステンションへの努力が必要

エクステンションへの務めは、リーダーにとって認められるためのゲームでも表彰を得るためのものでもありません。また、人数を増やすために入会者の質を犠牲にしてはなりません。しばしば新入会者が入ったとたん途方にくれているのも見られます。それは、我々のワイズの運動の本質と目的、経済的な義務についてオリエンテーションの折に効果的になされていないために起きているのです。新入会候補者に誠実に接してください、そうすれば生涯ワイズメンとなる人を得られるでしょう。

あなたのクラブでの会員の高齢化に対処するためには、若い会員を中心に会員増強チームを組んで結果を出す仕組みを作ることも大切なことです。

どのような人に入ってもらいたいのかも考えておく必要があります。メンバーを増やそうする際、とかく「質」の面が軽んじられがちです。私利私欲のない人で、我々の運動の目的を守る人で、常に倫理的に行動できる人を求めるべきです。

IDGF—インドでの経験

IDGFとは、Inter District General Forum(部横断全体フォーラム)の略でインド地域国際会長のK. C. サムエル氏がインドでの会員増強のために開発したコンセプトです。

インドの各地でフォーラムを開催して新たに2,000人の新入会員—「freshers」—を増やそうという目的をもって、最近素晴らしいスタートを切ったのです。

割り与えられた地域を40から50に分け、それぞれの地域で中心となるクラブを決め、フォーラムを10回開催するという方式で行いました。各クラブは、4-5人の新入会員獲得を目指し、候補者に付き添ってセミナーに行き、ワイズの運動の目的は何か、奉仕する内容はどのようなものであるか、会員となるにはどのような基準があるのか等を、映像を交えて説明するというものです。また、参考になるよう、

詳細な冊子も配布します。

最も大切なことは、フォローアップです。スポンサークラブは、新入会員候補を、できれば家族揃って例会に招き、活動に溶け込めるようにして友好の輪に加わり、活動に参加してもらうことによって、新入会員を獲得することに常に意欲を持っていることを示してください。

ほかの地域の皆さんも、この取り組みの良さを評価していただき、ぜひ試してみてください。

国際協会による補足

この地域、区のレベルでの努力を会員の維持・増強という両面から国際レベルでの行動に発展し

ていけるようにしなければなりません。多くの場合、良かれと思って国際レベルで決定した考えが、会員の増強を妨げる結果になっていることがあります。大きな地域、多くの会員のいるクラブでは、往々にしてもうピークに達したので、これ以上会員を増やすという意欲が廃れてしまっているのが見受けられます。一方、小さな地域や会員の少ないクラブでは、必要なものはすでに持っていて、もうこれ以上成長する必要がない、といった意欲減退のところも見受けられます。両方の状況は、衰退とネガティブな結果となる原因です。

もし、我々が住んでいるこの地域や社会で何かをなそうとするならば、この問題は慎重に配慮され、これに立ち向かっていかなければなりません。

結論として

もし、会員の拡張、維持が真の成長発展を意味するならば、「国際—地域—区」という3層のそれぞれのリーダーシップが統一した「戦略」を展開し、各クラブでの努力を支援していくことが必要でしょう。



YMI ワールド編集部からのお願い

クラブリーダーのみなさんは、クラブ活動について150語以内で、鮮明な写真と適切な表題を添えてお送りください。また、読者の皆さん、ワイズの運動に関して、グローバルな視点から思っていることを寄稿してください。次号の原稿締め切りは、2018年11月30日です。

トップレベルでの新たなリーダーシップ

ジェニファー・ジョーンズ次期国際会長

最近、チェンマイで開催された第19回世界 YMCA 大会は、世界 YMCA 同盟において女性が会長として率い、また、2019年1月には総主事を引き継ぐカルロス・サンヴィ氏による新しい時代のスタートでした。ジェニファー・ジョーンズ次期国際会長は、その記念すべきイベントを見届けるためこの世界 YMCA 大会に参加しました。

ワイズメンズクラブ国際協会は、YMCAと共に歩むことを幸せに思い、今後のお互いによって価値あるパートナーシップを楽しみにしています。

タイ北部の緑豊かなチェンマイ市で、今年7月7-14日に第19回世界 YMCA 大会が開催され、1,200人の代表者が参加しました。ヨハン・エルトビック総主事は開会式で「私たちが共に行って来た事」を、独特でユニークなやり方で報告しました。YE4Good(ユースエンパワーメント for Good(ユースエンパワーメントが世界を変える))は今大会のテーマであり、過去8年間のYMCAの主な推進力となっています。ヨハンは、174年前にYMCAの創始者が心に持ち続けていたものをより良く見るために、ジョージ・ウィリアムズのメガネを借りました。

「百万人の声」で得られた情報は、現在の活動に取り入れられ、2回目の調査もほぼ完了し、健康、仕事、差別、環境、正義、移民に関する問題が浮上しています。ワイズメンズクラブ国際協会は、この2回目の調査を支援した主要団体として認められました。



2人の会長。パトリシアとジェニファー。

多くの鼓舞させる話し手には、ピーター・ボズナー元会長、コンボ YMCA のドリーナ・ルルカ・デイヴィス、オーストラリアのピーター・バーンズ、ハーレム・グローブ・トロッターズのハワード・スミス CEO の各氏がいました。

チェンマイ YMCA とラナチェンマイ Y サービスクラブがサポートしている「明るい笑顔」というプログラムの中に、土曜日の午後に遠足を楽しむ一つの企画がありました。パッチャラワン(Pat) スリシラパナン元理事、彼女のスタッフ、支援者たちは、約1,000人の子供達がどのようにして暖かい支援を受けているか、興味深く有益なプログラムを紹介しました。

カナダのパトリシア・ペルトンさんが世界 YMCA 同盟の新会長に選出されました。女性が会長に選ばれたのはこれが初めての事です。カルロス・サンヴィ氏はシンガポールで2019年の初頭に総主事の役職を引き継ぐことになっています。私たちは新役員活動を応援し、ワイズメンズクラブとYMCAの双方がより良くなるよう、共に活動することを楽しみにしています。この素晴らしいイベントに我々ワイズメンズクラブのリーダーや多くのワイズメンズメンと一緒に参加できたことに感謝しています。

新総主事

カルロス・サンヴィ氏は、世界 YMCA 同盟理事会の選考委員会での手順を経て、次の世界 YMCA 同盟総主事に任命されました。



2007年以降、カルロスはYMCAのアフリカ同盟総主事を務めており、その前にはスイス・ジュネーブの世界YMCA同盟で財務・総務部門の主任主事も務めていました。彼は自国のトーゴで、ボランティアとしてYMCAと関わり、1987年にはトーゴYMCAのリーダーシップ開発担当主事という職に就いています。

世界YMCA同盟の会長、ピーター・ボズナーが、理事会を代表して任命を発表し、「カルロス次期総主事、おめでとうございます! 今後、あなたの世界YMCAのための仕事に神のお導きがありますように!」と表明しました。

ワイズメンズクラブ国際協会からもお祝いを申し上げます。

世界大会で私が学んだ3つのことから

私たちは世界中に存在している若者の権利の侵害の複雑な階層を多く採り上げました。将来のチャンス、教育、医療への不公平さ、そして精神疾患の暗雲について、話題の中心でした。そして、今、これを書いているこのときに私の頭脳が良く働くようにがんばりつつ、この24時間で学んだ3つのことから紹介いたします。

ハグはYでは必須です!

礼儀正しく、控えめな握手を期待しているときでも、今まさに出会った誰かと、温かい(そして汗臭い)ハグに必ず包まれます。また、たびたび、1回の頬へのキスが次に続くこともあります。幸運なときの両頬へのキスは、愛情のYMCAでの大当たりです!(そのような事はあなたが思っている以上に頻繁に起こります)。このレベルまで友情を得られるならば、それは、本当に抵抗する価値はありません。



多様性は絶対に、私たちの最大の強みです

人生の多くの歩みの中で、私たちは共に生き、お互いを受け入れ、そして自分自身をも受け入れる力を築いて来ています。少数派からの抵抗もありますが、YMCAに関わる人々はこのことができ、その中で自分自身をさらに成長させ続けることに自信を持つことができます。ジェンダー、人種、宗教、性的志向のいずれであっても、勇気は伝染し、多くの者がYMCAに関わっていることを伝え続けることでしょう。

最後に、優しさにはお金がかからない

休憩時のコーヒー消費量は最終日には2倍位になっているに違いありません。午後には、私たちの過去の勝利についてこれまでの指導者に感謝し、新しい指導者、新人を歓迎し、可能性に満ちた豊かな将来に向けて膨大なエネルギーの必要性を感じ取ることができます。チャレンジは受けて立ちましょう。

ジョージ・ニコールのプログから、オーストラリア YMCA からの 26 歳の YMCA チェンジエージェント 世界 YMCA 同盟ウェブサイトから引用

ホンコン:洞察力ある介入

「香港中華大学(以下 CUHK)・ジョッキー・クラブ・子供用検眼プログラム」は、同大学の眼科・視覚科学学科、ノースウエスト・ワイズメンズクラブの援助の元で、2015年のユーエン・ロング・タウン・ホールの初の共同プロジェクトとして、6歳から8歳まで4,000人の子供達へ無料の眼科検診を行いました。ジョッキー・クラブの寛大なサポートによって、香港の18の地区すべてを対象に3年間で3万人の家族を支援するという新たなフェーズに入っています。



眼科検診の様子

眼科検診は、眼球の生体測定、眼圧、毛様体屈折度測定および視力測定等を含みます。プログラムの作業グループは、



プロジェクトからプログラムへ。それを可能にしたチーム

定期的に会議を開催し、NGOや地元の学校など、地域のボランティアを巻き込んで行っています。その作業グループの焦点は、ボランティアが全て整った設備の中で、十分な訓練と十分な知識が得られるようになることです。これを実現するために、学校や香港眼科病院で、講習会や情報交換が行われています。それらの終了後、ボランティア達は家庭訪問を行い、検診の補助をするよう割り当てられます。このプログラムは、香港の学校でとても喜ばれていて、地域社会から良い評判ももらっています。

アンディー・フー アジア太平洋地域広報事業主任

ロシア:沢山の笑顔、そしてハッピーフェイス

障がいを持った子の親子をどうやって、一時的にせよ、幸せと感じさせ、満足させてあげられるでしょうか?

この目的は、最近、ボロソボ村(レニングラード区)で達成されました。ヴェスナワイズメンズクラブと地元の社会福祉センター、さらには、サントペテルブルグワイズメンズクラブとボランティアの支援を受けて障がいを持つ親たちに少しの幸せと元気を与える新しい試みが始まりました。

彼らは、最初の12家族を地元の文化センターに招待し、

あるボランティアたちが子供たちと一緒にゲームをしている間に、別のグループは、新しい衣服を配り、お母さんたちの髪の毛のセットと化粧をしてあげたりしました。そして、最後に家族写真をプロが撮影し、その写真を皆さんに渡しました。

この試みで、私たちは何を得たのでしょうか?そうです。招待した家族とボランティアたちの双方の沢山の笑顔とハッピーフェイスです。

マリナ マカロヴァ



インド・ケララ州:巨大洪水に立ち向かう

ケララ州は、インド半島の南西部に位置しています。約1世紀前の1924年以来経験したことのない大雨に襲われました。雨は2週間も続きました。今まで三世代にもわたり経験したことのない規模でした。ケララ州の14州の内、13州が被害を受けました。ケララ州の大きさは、インドの全体の1.18%に過ぎませんが、その被害の大きさが途轍もないことがお分かりでしょう。本来、安全な土地と考えられていたところに建てられていた2階建ての家が、流された地域もあります。150万以上の人々が、一時的に安全な場所に避難させられ、また、牛やその他の家畜が洪水の犠牲となりました(中央の数字をご覧ください)。妊婦、高齢者その他の弱者が、危険地帯から空輸されました。とにもかくにも、ひとびとには勇気と決心が必要な状況でした。

敏速な反応

ケララ州は、国際協会の中で、最も大きな区が3つあり、インド地域の80%のワイズメンバーがここに集中しています。多くのワイズの家族が被災しました。被災しなかったワイズメンバーが中心になり、関係当局による災害情報の発信の直後から救援活動を開始しました。

南インド区の、ケララ州境に近いワイズメンズクラブはパラニアパン部長の主導の下、直ちに救援物資を運び、緊急事態に対応しました。南インド区のほぼ90%のクラブが救援物資とボランティアを提供しました。同区内の部長たちとクラブの

指導者の報告では、彼等だけで、トラック70台分の救援物資(500万インドルピー、約7万米ドル相当)、さらにその金額同等の支援金が、州政府洪水支援基金宛ても含めて贈られました。ムン・サン・ボンワイズ国際会長もクラブが支援活動を続けることができるよう、5,000米ドルを会長裁量資金から支出してくれました。

代表的数字
人命の損失: 400人
損害を受けた道路: 80,000km
破損家屋: 26,000戸
失われた家畜: 246,000頭
損害を受けた耕地: 40,000ヘクタール

ワイズユースとコメントもこの緊急時に活動しました。インド中西区、南西区、西区、南区から30人以上が1週間以上にわたり、救援キャンプでの水、食料、衣類の分配に活躍しました。後日、洪水の水が引いてから、彼らは、被災者の住宅の清掃、被災者への食料や必需品の配布活動に従事しました。

アッティンガルコメントクラブは、南西区のスネハディーパム事業を率先して支援し、被災した住宅の清掃のために分配される薬剤の製造に携わりました。やっど、水が引け、ケララ州政府は、損害の算定を行っており、今や、焦点は州の再建に向かっています。最初の見積もりでは、基本的なインフラの復旧、損失耕地の回復、失われた生活の復旧、等々に3,600億インドルピー(約50億米ドル)を要すると推計されています。

シーグラ・ルイス(YMIワールド副編集長) デア・ヴィジャアン(AYR)、アラヴィンド・チャンドラン(コメント)からの情報提供とともに。



上:(左)コメントたちが清掃用の薬剤の梱包、ラベル張りを行っているところ。(右)ユースが清掃作業に出かける前の説明を受けているところ
下:避難キャンプの被災者に運ばれた支援物資の一部





地球とプラスチックのどちらが大切か?

それは、単純な質問です：「地球とプラスチック（ビニール）のどちらが大切か？」2018年5月にナショナル・ジオグラフィック誌6月号の表紙で、冰山として描かれたビニール袋によって明らかにされて以来、それはプラスチック（ビニール）汚染を取り巻く問題の大きさとそれが及ぼす範囲と深刻さを不快になるほど明瞭に伝えることによって、多くの人々をその場に立ち尽くさせることになりました。この物議をかもし表紙絵関連記事は、一度しか用いられないプラスチック（ビニール）製品が広く使用されている現状と、それが環境に与える悪影響を減らす意識高揚を目的とする複数年のキャンペーンの始まりとなりました。

ワイズメンズクラブ国際協会は、環境保護とプラスチック（ビニール）問題解決の為に世界規模のキャンペーンに真剣に取り組もうとしています。

一般市民であると同時に社会的関心と責任を持つ組織の会員として私達にできることは何でしょうか？私達のささやかな行動がプラスチック（ビニール）のもたらす影響の軽減に大いに役立つことでしょ。以下に私達の惑星（地球）の希望に満ちた未来を築く一助となるように、プラスチック（ビニール）製品の消費軽減に役立つ幾つかの方策を示します。

1. プラスチック製ストローの使用を止めましょう…

…そして繰り返し使えるストローを使用しましょう。私達は、毎日5億本以上のプラスチック製ストローを使っています。考えてみて下さい。レストランや喫茶店でコーヒーを注文した時には、飲むのにストローを使用しません。ですから水や炭酸飲料を飲む場合もストローが必要でしょうか？一度しか使わないストローは要らないと言う事は、あなたが考えるよりも簡単です。レストランやバーでは、ストローは、なくても良い、と相手に伝える前にプラスチック製ストローをくれる傾向があります。ですから、飲み物を注文する際には、ストローは要らないとウエイターやバーテンダーに伝える事が肝心です。ストローを使いたい場合は、持ち歩いて繰り返し使える金属性、竹製、ガラス製のストローを使用するという素晴らしい代案があります。

2. 繰り返し使える買い物袋を持参しましょう

毎日世界中で100万枚以上のビニール袋が使用されており、年間およそ5,000億枚のビニール袋が生産されています。スーパーに食料雑貨品の買い物に行ったり、商店街で大量に商品を購入したりする場合は、自前の買い物袋を持参しましょう。

3. プラスチック製飲料ボトルをなくしましょう

ほとんどの商店や多くの企業が繰り返し使える、様々な飲料ボトルを製造しています。大きさ、形、材質は、様々ありますので、プラスチック製飲料ボトルを使い続ける必要は、まったくありません。1人の人が一度しか使用されない飲料ボトルを使う代わりに、繰り返し使えて詰め替えできるボトルを使うことで、年間に170本ものボトルを製造する必要がなくなるのです。もし5人家族全員がこの環境に優しい取り組みを始めるならば、およそ850本もの飲料ボトルを製造しなくて済むのです。

4. プラスチック製ではなくガラス製容器に昼食を詰めましょう

プラスチック製ジップロック・ブランド容器の使用を止めて、一度しか使用しない容器ではなく、もっと環境に優しい容器を使いましょう。多くの有名ブランド企業が食品を詰める全ての必要を満たす蓋つきガラス製容器を製造しています。メーソンジャー（蓋にゴムが貼ってあるガラス製広口びん）も、昼食を詰めるもう一つの創造的かつ洒落た方法です。

5. スナックや食べ物の過剰な包装を止めましょう

過剰包装に関しては、私達全員が責めを負うべきです。一般の人は、小さなポリ袋に入ったスナックサイズのポテトチップ入りの大きなポリ袋を買います。



棚に並んでいる食品を包む全ての不必要な包装を考えてみて下さい。さらに幾つかのスーパーでは、一つ一つの果物や野菜をビニールのラップで包みます。そのラップを捨てるかわりに、他の商品を包むのに再利用できるように、買い物をした食料品店にラップを置いておくようにしてください。

6. プラスチック製のフォーク、スプーン、ナイフの使用を止めましょう

持ち帰り用食べ物を注文した際には、それと一緒にプラスチック製フォーク、スプーン、ナイフを機械的に受け取ります。注文した食べ物を受け取る前に必ずそれらは要らないと言いましょ。食べ物を自宅に持ち帰れば、多分、使える食器類があるでしょうから、プラスチック製品を持ち帰って無駄にする必要はありません。もし、食べ物を買いに出て職場に持ち帰る場合は、洗って繰り返し使える安価な食器1セットを職場に置いておいて下さい。そうすれば、また昼食を食べる際に食器類がなくて困る事は一切ないでしょ！

7. できる限りプラスチック製容器ではなく段ボール製容器を選びましょう

段ボールは、プラスチックと違って、もっと簡単に再利用できますし、時間が経てば生物分解されます。プラスチックも再利用できるのですが、できれば段ボール製の箱に入った洗剤などの商品を買うことで製造する必要のあるプラスチックの量を削減するのに役立ちます。

最後に、もしそれがプラスチックなら、考え直してください

最後の項目は、具体的な項目ではありませんが、私達は上述した項目以外にもプラスチック（ビニール）の使用の削減に役立つ方法が多くある事を知っています。子ども達が遊ぶときに手にする玩具から誕生パーティーで使用する多くのプラスチック製品に至るまで、私達の周りにはプラスチック製品が溢れています。私達は、何が何でもプラスチック製品の使用を避けるのは、ほとんど不可能であると知っています。しかし、もしも別の物で簡単に代用できるなら、プラスチック製品を購入する前に考え直すことをお勧めします。

4ocean.com/blogs/blog からの引用

花の視点から

「棘の視点から世界は、まるで棘のように見えます。花の視点から世界は、まるで花のように見えます」(フルコ・アンカアマからの引用)

これらのシンプルではありますが、啓発的な言葉は、チベット仏教の尼僧アニ・チョイング・ドールマによってしたためられました。アニ・チョイングは、1971年ネパールのカトマンズでチベット人亡命者の子どもとして生を受けました。13歳の時、彼女は身体的虐待をする父親から逃れるために尼寺に入所しました。その尼寺でお経を学ぶことによって彼女は、自分に音楽の才能と音楽に対する深い愛情を持っていることに気づきました。フルコ・アンカアマは、彼女がしたために歌った多くの歌の一つです。録音されたその歌と(英語の)翻訳を <https://www.youtube.com/watch?v=HLggOXZwfOA> で見聞きできます。

尼寺の尼僧であることでアニ・チョイングは、家父長社会では、たとえ尼寺の中であっても女性が指導的な役割を果す機会がそれほど多くないことに気づきました。彼女は、伝統的に家父長社会であるネパールの改革に一生を捧げ、女性が潜在能力を十分に発揮する手助けをする決断をしました。それは、たやすい取り組みではありませんでしたが、一輪の花としてアニ・チョイングは、自分を取り巻く世界を美しさと潜在能力で満たされている花と捉えています。彼女は、より公正な社会を実現するために精力的に行動しており、私たちに同じよう行動するよう鼓舞しています。

フルコ・アンカアマという歌が我々に問いかけている質問は、重要です。私たちは、棘でしょうか、それともバラでしょうか？私たちは、世界を恐ろしい恐怖で満たされ破滅へと突き進む暴力的な世界と捉えているのでしょうか？それとも自分達の身の回りで起きている、ありとあらゆる危険にもかかわらず、希望と美しさの兆候に目を向けているのでしょうか？アニ・チョイングによれば、私たちの世界の捉え方が私たちの心の中を反映しているのです。

今日私たちの住む世界で棘になるのは、難しい事ではありません。私たちは、毎日のように戦争のニュースや戦争の噂で責められていています。どのようなテロ行為であれ、テロと思われる行為であれ、マスコミで大々的に報道されます。テロ行為や被害状況や実行犯とみられる人物については、微に入り細にわたって情報を得ることができます。私たちは、起こる可能性のある出来事、「テロリスト達」が私たちにに対して計画している事、更には自国がどのように破滅に向かって突き進んでいるかについて常に警告を受けているのです。自らが棘となって周りの世界を棘とみなそうとするプレッシャーが一日中私たちに重くのしかかっています。

私は、アジアにもう40年以上住んでいるので、暴力がはび

こっている地域の真ただ中で生活しているにもかかわらず世界をバラのように見ている多くの人々に出会う好機を得ることができました。インドネシアのイスラム教の友人達は、キリスト教徒の人達を守り、保護するためにイスラム教原理主義者に対抗して立ち上がりました。なぜならイスラム教徒



の友人達は、キリスト教徒とイスラム教徒は、真の兄弟、姉妹になれると信じているからです。タイの仏教徒の友人達は、非暴力が銃や棍棒による脅しよりも遥かに効果的であると知っているのです。平和と平穏を訴えるために手を取り合っ、対立している派閥の間に立ち上がりました。インドネシアのキリスト教徒の友人は、イスラム教徒の人達や、その他の宗教を信じる人達と行動を共にして、彼の住んでいる地域の激しい紛争に終止符を打とうと精力的に行動しています。なぜなら彼は、神の共同体の実現は、真に可能であると信じているからです。これまで述べてきた友人達がこのような勇氣ある行動を取っている理由は、彼らが全ての人、たとえ「敵」であっても、その人の中に神によって愛されている人、つまり自分の家族の一員の姿を見ているからです。

私は、いつもこれらの友人達から世界をバラのように見るように励まされています。彼らは、私が他者に対する恐れと意思込みを捨てる手助けをしてくれます。幸運なことに私は、彼らと出会い行動を共にする好機を与えられました。また、彼らによって私は、マスコミで報道されるありとあらゆる悪いニュースに圧倒されるのではなく、人々の所に向向いて行って彼らの目を通して美しい世界実現への希望を見出すように促されているのです。

我が国(アメリカ)では、銃が安全のシンボルになっているように思われます。より多くの銃を必要としている状況が示唆しているのは、他者に対する根深い恐れであり、結果として「他者」を私たちの安全と幸福を脅かす棘と見なす事に繋がっているのです。この恐れを根絶すれば世界は、徐々にバラのように見えてきます。

私たちの住む世界は、愛の神によって創造されました。天地創造が完了した後、「神はお造りになったすべてのものを御覧になった。見よ、それは極めて良かった。」(創世記第1章31節)とされました。神は、世界をバラとして創造されました。そして、バラの美しさと、その反映である神の王国を見守る責任を私たちに委ねたのです。私たちは世界をバラと見ているのでしょうか、それとも棘と見ているのでしょうか？

*マックス・エディガーは、カンボジアで設立された「平和の学校」の運営責任者です。 www.mennolink.org/peace アメリカ合衆国メノナイト教会 平和・正義支援ネットワーク・ネット出版、ピースサインズの許可を得て転載。

